

講義コード	11C0126700	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	開発経済学Ⅰ					芹田 浩司		第1期	
履修前条件						備考			
授業の目的	<p>開発経済の主要な課題は、発展途上国に多かれ少なかれ共通する貧困や経済格差（不平等）の問題をいかにして解決（是正）していくかにあると考えられる。この授業は、これまで示されてきた開発に対する様々な見方・アプローチ（理論的枠組み）を検討するとともに、ラテンアメリカやアジアの事例を中心に、工業化をはじめとする開発戦略の実証的検討を行うことを通じて、開発や経済発展に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>後期の「開発経済学Ⅱ」に比し、この「開発経済学Ⅰ」では、本授業テーマについてのより一般的・理論的な問題を中心に扱う予定である。</p>								
到達目標	<p>発展途上国における開発問題や、発展途上国と先進国の関係等を学ぶことによって、過去および現在の世界経済に関する知見を深めることができる。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>テキスト（配布プリント）については毎回復習してくること（分からない用語や概念等についてはそのままにせず、自分でも積極的に調べること）。また国際面や経済面を中心に新聞にも目を通してここと。なお、授業外学修時間については120時間以上とする。</p>								
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション：開発経済学の課題等 [A. ルイスの二重構造モデル、ビッグプッシュ、A.O. ハーシュマンの不均衡成長論等]</p> <p>【第2回】 発展途上国の現状と問題 — 工業化の理論的根拠に関する検討</p> <p>【第3回】 開発をめぐる諸概念：経済成長・経済発展・開発（アマルティア・センのアプローチ等） — 工業化の意義や経済的効果、工業化の方向性（輸入代替工業化と輸出指向工業化）に関する議論等</p> <p>【第4回】 ～【第5回】 経済格差問題を考える（「機会の平等」と「結果の平等」の議論等） — これまでのまとめ（小テスト：予定）</p> <p>【第6回】 ～【第7回】 開発経済学における様々な分析アプローチの検討 【第12回】 ～【第13回】 国際援助問題を考える－アフリカの事例を中心に</p> <p>【第8回】 ～【第11回】 経済開発（工業化）に関する理論的検討 【第14回】 マイクロクレジットと貧困問題</p> <p>— 古典的アプローチ（初期の開発経済学）の検討 【第15回】 全体のまとめ</p>								
成績評価の方法	基本的には定期試験の成績による。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書	『国際開発政策研究』石川 滋（東洋経済新報社）2006、『開発経済学－貧困削減へのアプローチ』黒崎 卓、山形 辰史（日本評論社）2003								
参考書	『経済成長』デイヴィッド・N・ワイル（ピアソン）2010、『開発経済学概論』ジェラルド M. マイヤー（岩波書店）2006、『トダロとスミスの開発経済学』マイケル P. トダロ、ステファン C. スミス、マイケル P. トダロ、ステファン C. スミス（国際協力出版会）2004、『エコノミスト 南の貧困と闘う』ウィリアム・イースタリー（東洋経済新報社）2003、『開発経済学の展開』高木 保興（有斐閣）2002、『開発経済論』原 洋之介（岩波書店）2002、『開発経済学入門』渡辺 利夫（東洋経済新報社）2001、『開発経済学－諸国民の貧困と富』速水 佑次郎（創文社）2000								
教員からのお知らせ	基本的に教科書は用いず、配布プリントを基に進める予定です。その他の参考書等については授業中に適宜、紹介します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
その他									